

**[話題提供]** 富士の介における出荷前の色揚げ期間の検討及びサイズ上昇に伴う飼料効率の低下

**[要約]** 色素含有させた飼料（アスタキサンチン濃度約 45ppm）を約 0.8%の日間給餌率で週 5 日間給餌した場合、身色がカラーチャート（DSM Salmo Fan™）27 番、30 番色に達するために必要な期間はそれぞれ 3-4 ヶ月、5-6 ヶ月であった。

**[担当]** 山梨県水産技術センター・忍野支所・三浦正之

**[分類]** 技術・普及

---

**[課題の要請元]** 養殖業者、山梨県養殖漁業協同組合

**[背景・ねらい]**

富士の介（ニジマスメスとキングサーモン性転換オスを交配した全雌三倍体魚）においては品質確保のために「富士の介生産者連絡会議」において出荷時の身色基準が定められている。本研究では出荷前の色揚げに必要な飼育期間を実際の出荷サイズの魚を用いて検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 富士の介の色揚げ期間を実際の出荷サイズ（1.5～3kg 程度）で検討した（図 1）。
2. 市販配合飼料に色素を外添した飼料（アスタキサンチン濃度約 45ppm）を約 0.8%の日間給餌率で週 5 日間給餌し成長や色揚げの推移を調べた。
3. 身色がカラーチャート（DSM Salmo Fan™）27 番色（出荷基準に定められた値）及び 30 番色に達するために必要な期間はそれぞれ 3-4 ヶ月及び 5-6 ヶ月と推定された（図 2、3）。また、色素を含まない飼料に切り替えた場合、上昇時と同様の傾きで身色が低下した（図 2）。
4. 体重の上昇に伴い飼料効率（給餌量あたりの増重量）は直線的に低下し（図 4）、体重あたりの飼料代は増加する。

**[成果の活用上の留意点]**

飼料中のアスタキサンチン濃度や給餌率によって色揚げに必要な期間は変動するため、今回の結果はその期間の目安として活用する必要がある。

**[期待される効果]**

色揚げに必要な飼育基準が示されることで富士の介出荷魚の品質確保と生産コストの適正化が図られる。

[具体的データ]

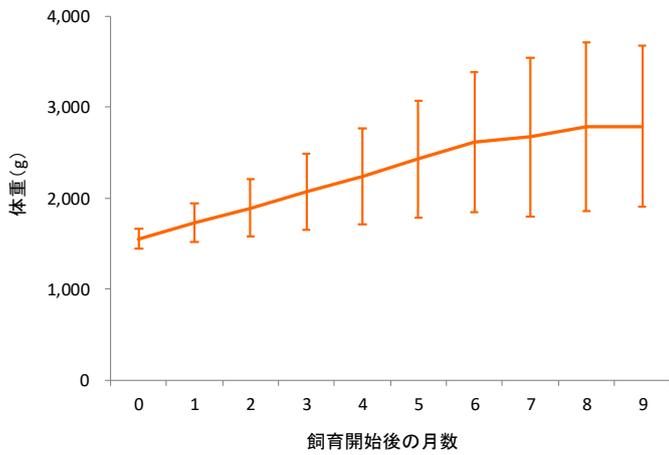


図1 体重の推移

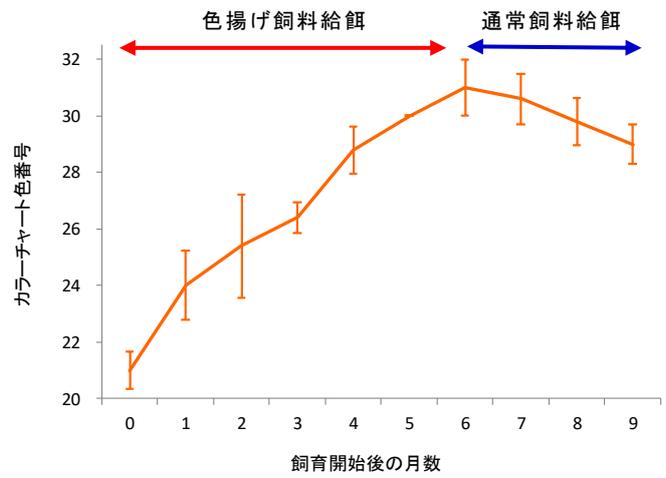


図2 カラーチャート (DSM Salmo Fan™) 色番号の推移



図3 色揚げ前(上)と色揚げ後(下)の写真

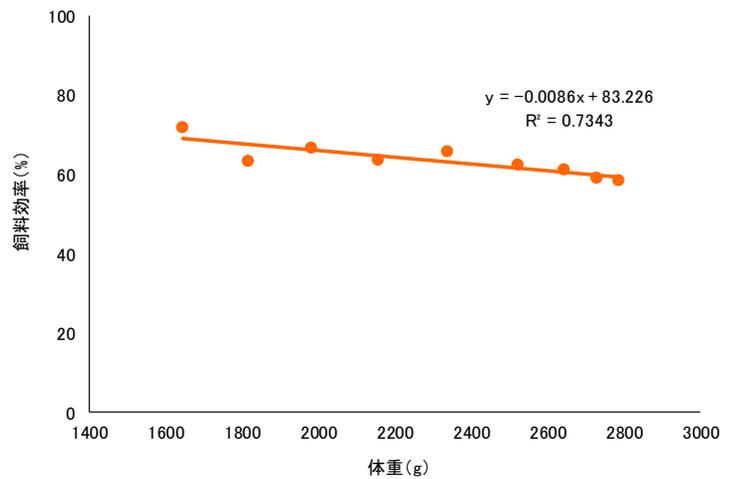


図4 体重と飼料効率の関係

[その他]

研究課題名：バイオテック魚の養殖特性に関する研究

予算区分：県単

研究期間：2019～2020 年度

研究担当者：三浦正之、平塚 匡